

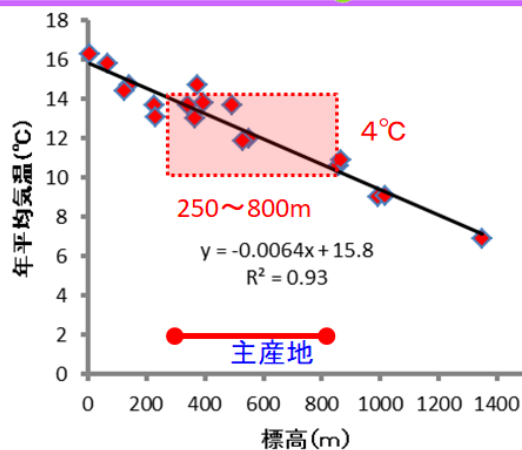
果樹農家のみなさまへ、時季ごとの耳より情報をお届けします



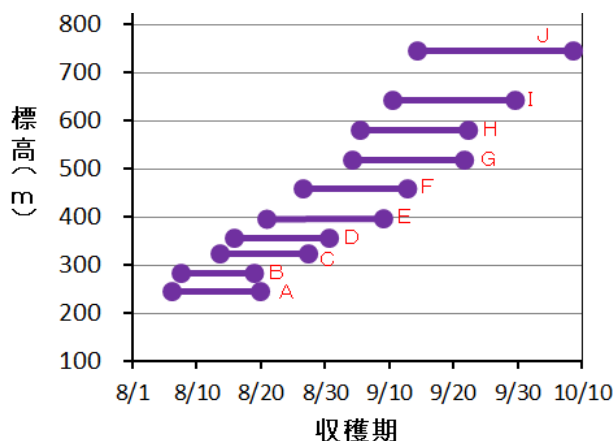
## 山梨県内ブドウ産地の標高と気象



- 県内ブドウ産地について主に標高と気象から概観した結果をお知らせします。
- 甲府盆地とその周辺の緩傾斜面は多くのブドウ園が分布する日本有数の産地です。主産地は標高 250m~800m の範囲にあります。
- 山梨県と近県地域内にある気象観測地点における標高と年平均気温との関係は、直線上に並びます。標高が高い地点で年平均気温は低く、100m の標高差があると 0.64℃ 変化します。
- その結果、主産地内では最大 4℃ 程度の気温差が見られます。標高 800m 地点の気温は盛岡市や青森市の気温にほぼ相当します。
- 県下10ヶ所のJA支所におけるピオーネの出荷期間は、1支所では2週間程度でした。しかし、全体では8月6日（A支所）から10月9日（J支所）まで標高とともに少しずつ出荷がずれながら約2ヵ月にわたり出荷が続いていました。
- 図を読み取ると、標高が 100m 高いと6日出荷が遅れる結果となります。地域による土壌や栽培方法等の条件も考慮して再集計すると、標高 100m あたり 3~5 日遅れが妥当であり、地域による収穫日や生育状況を推定する目安の一つとなります。
- このように県下のブドウ生産は標高による気温等の気象条件により影響や制限を受けています。反対にそのことが、広大なブドウ生産を一時期に集中しないように分散させ、同時に各地域における特色ある産地形成に貢献しています。



標高による年平均気温への影響  
(山梨県と近県地域)



標高の異なる産地によるリレー出荷  
(H28, ピオーネ)